

輸送能力改善と安全性向上に寄与

バン格拉デシュでは経済発展に伴い、鉄道輸送の需要が増加している。ジャムナ川に架かる「ジャムナ多目的橋」は、道路・鉄道併用橋として重要な役割を担っている。だが振動問題やコンクリートひび割れが進行し、通車両の速度や重量の制限、運行遅延などが生じ、対応が喫緊の課題。



橋梁全景

そこで同橋に並行し鉄道専用橋を整備。輸送能力や安全性を高め、今後の経済発展につなげるのが狙いだ。日本の円借款により、ジ

ジャムナ鉄道専用橋建設事業 WD-2西工区

(バン格拉デシュ)

ジャムナ多目的橋の上流300mの位置に鉄道専用橋を新設。安全性向上と物流効率化の両立を目指した。発注者はバン格拉デシュ鉄道省と同国国有鉄道。施工者はIHIインフラシステム(現IHIインフラスクエア)・三井住友建設。実施期間は2020年8月～24年12月。

橋梁形式は鋼連続ワーレントラス橋。全橋長は4800m。うち西側(WD-2)2250mをIHIインフラシステム・三井住友建設が担当した。上部工には日本の技術で、ライフサイクルコストの低減に貢献する耐候性鋼材を使用しており、再塗装しなくても使い続けられるようになっている。橋上の軌道設備は複線とした。列車走行試験では、広軌で最高時速120



列車走行試験

ナ首相の政権が反政府運動により崩壊。政情不安から、通信遮断や外出禁止令が発令され、人員や資機材の輸送が滞った。世界有数の流量を誇るジャムナ川は、雨期の流速上昇と乾期の水位低下による河床の浚渫作業も必要となり、工程管理でネックとなった。

キ、狭軌も最高時速80kmの走行を成功させている。この案件を受注した20年4月は、新型コロナウイルスの流行が拡大した時期で、渡航制限や隔離措置により深刻な人員不足のただ中での工事となった。24年8月には、シェイク・ハシに迎えた。

